



## ◆財団設立から50周年を迎えました◆ ～大阪市青少年活動協会のあゆみ(3)～

### ◆青少年育成事業の取り組み

財団設立後の50年間で、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化してきましたが、協会事業の柱の一つである青少年育成事業は、時代の要請や社会の変化に対応しながらも、一貫して次の三つの要素を大切にしてきました。



一つめの要素は、「リーダー」であるボランティアスタッフの存在です。昭和53年に協会専属のリーダー養成を試行し、翌昭和54年には、協会専属指導者である「ボランティアスタッフ」制度を立ち上げました。その後、スタッフ数の増加に伴い、キャンプ数や参加者数、施設利用者数も増加し、協会が安定した事業運営を行うための基盤が築かれました。昭和53年に17名で始まったボランティアスタッフは、現在では170名を超える体制となっています。現在も、職員とスタッフが共に活動する中で、目標や課題を共有し、さまざまな活動の機会を通じて、一人ひとりのスタッフが成長し、自己実現を図ることができるよう努めています。



二つめの要素は、「仲間」との出会いとふれあいです。キャンプでは、育った環境や生活習慣、考え方の異なる子どもたちが初めて出会い、協同生活や多様なプログラムを通じて、「仲間」や「リーダー」と心と心が触れ合う濃密な時間を過ごします。こうした体験を重ねることで、子どもたちは人間的な成長を遂げていきます。



三つめの要素は、「自然」との関わりです。協会は設立以来、豊かな自然に囲まれた野外活動施設においてキャンプを実施してきました。その中で子どもたちは、四季折々の自然の豊かさを体感し、キャンプ生活を通じて自然との関わりについて多くを学ぶことができました。一方で、自然災害や危険な動植物など、自然の厳しさについても学び、自然に対する感謝や畏敬の念、そして自他の生命をかけたがえのないものとして大切にする心情を育んできました。これらは、「安全がすべてに優先する」という協会のキャンプ理念にもつながっています。自然とのふれあいを通して、人は多くを感じ、学び、成長することができます。また同時に偉大な自然の力の前では人間の力が及ばないこともあります。だからこそ、自然の中で豊かな体験を得るためには、周到な準備と万全の安全対策が何よりも重要であると私たちは考えています。

このように、協会がこれまで大切にしてきた「リーダー」「仲間」「自然」への真摯な想いは、協会の良き伝統として受け継がれてきました。今後も、

子どもたちがキャンプ生活を通じて、三つの要素と関わる中で、自尊感情を高め、社会に順応する力や社会の期待に応えられる力を育むことができるよう、事業を実施していきます。

### ◆青少年育成事業の変遷

#### ●対象学年

設立当初、協会のキャンプ事業は小学4年生以上の児童および中学生を主な対象として実施していました。その後、低学年の児童にも参加機会を設けてほしいという保護者からの要望を受け、より幅広い年齢層の子どもたちが参加できる運営体制を整えた上で、低学年が参加可能なキャンプを新たに実施するようになりました。近年では、小学1年生から3年生の参加者が増加傾向にあり、現在では全参加者の70%以上を低学年が占めています。



#### ●宿泊日数

協会設立から平成初期にかけては、冒険的要素を取り入れたキャンプや、5泊から7泊に及ぶ長期キャンプを中心に実施してきました。これらは自然環境の中で子どもたちの自立心やたくましさを育成することを目的とし、自然体験や野外炊事などの生活体験を重視した事業でした。



一方、平成10年代以降は、低学年参加者の増加と並行して、1泊から2泊程度の短期キャンプへの需要が高まりました。その背景には、塾や習い事など子どもたちの生活スタイルの多様化に加え、長期キャンプは参加費が高額になりやすいといった経済的要因もあり、現在では短期キャンプが協会キャンプの主流となっています。今後は、長期キャンプならで

はの良さを生かし、子どもたちがより深い体験と成長を得られる機会を提供できるように、事業内容の工夫と環境整備に取り組んでいきたいと考えています。



#### ●実施時期

以前は、多くの小中学校で夏休み期間が7月20日から8月31日までと比較的長く、大学生リーダーの夏季休業も7月後半から始まるケースが見られました。しかし近年では、多くの大学で8月第1週頃まで前期試験が実施され、その後に夏休みへ移行する学事日程となっています。加えて、平成20年代以降、8月下旬から2学期が開始される小学校が増加したことにより、キャンプに参加する子どもとリーダーの休業期間が一致しにくい状況が生じています。このため、夏休み期間中のキャンプは、8月第2週から第3週をピークとして集中的に実施せざるを得ない運営体制となっています。さらに、地球温暖化等の影響による猛暑の常態化しつつあるため、熱中症リスクが年々高まっています。そのため、屋外活動時間の適切な制限、計画的な休憩および水分補給の徹底など、安全管理を最優先とした運営体制の下で事業を実施しています。

こうした環境変化を背景に、夏休み期間に限定せず、週末や連休を活用したキャンプの実施が増加し、現在では年間を通じたキャンプ事業の展開が定着しつつあります。

今後も、自然の中で安全かつ質の高い体験を提供するという協会事業の基本理念を堅持し、社会環境の変化を的確に捉えながら、誠実で創意に富んだ事業運営を継続していきます。



# ||||| 50周年記念事業レポート |||||

## ◎「ホームカミングデイ in 信太山」

11月24日（月・祝）に、信太山青少年野外活動センターにおいて「ホームカミングデイin信太山」を開催しました。これまで協会を支えてくださった、ボランティアスタッフや職員のOBOG、リーダーバンクの方など、総勢で約400名の方々にご参加いただき、あちらこちらで昔話に花が咲く様子が見られました。



当日は「火燻し体験」「クラフト体験」「キャンプソングのつどい」「懐かしの写真スライドショー＆ユニフォーム展示」「講演会」など、たくさんのイベントを実施しました。「火燻し体験」は、大きな火燻し装置を使って、参加者全員で力を合わせて綱引きの要領で火種を作ります。着火した瞬間、大きな歓声が聞こえてきました。

「キャンプソングのつどい」では、事前アンケートから20曲ほど選曲し歌いました。歌を覚えているか心配する方もいましたが、すぐに大きな歌声が響いていました。伊賀青少年野外活動センター（平成26年に廃止）をモチーフに作られた「太平にて」を



合唱した際は、「みんなで歌うことはもうないと思っていたのでとても嬉しい!」との声がありました。

また、遠方にお住まいの方も参加しやすいよう、前日からファミリーキャンプとグループキャンプを実施しました。夜のキャンプファイアでは、大きな炎を囲んで、現役スタッフとOBOGやそのご家族が一緒になって歌やゲームを楽しむ姿が見られました。

今回参加されたみなさま、並びにこれまで協会を支えてくださった多くのみなさまに深く感謝するとともに、次は60周年を目指して、これからもがんばっていきたく強く感じる事ができた一日でした。

## ◎「記念講演会」

12月6日（土）、大阪市教育会館東館において「財団設立50周年記念講演会」を開催しました。当日は、関係者および一般参加者を含め70名を超える来場がありました。本講演会は協会のこれまでの歩みを振り返るとともに、10年、20年先を見据えた協会の役割について考えることを目的に実施しました。

第1部では、京都府立り淡少年自然の家の河村所長が登場し、財団設立前史から現在に至るまでの協会の歩みや大切にしてきた理念・実践について講演されました。特に、青少年の健全育成において、指導者の存在が重要であるという視点から、協会が継続的に取り組んできた指導者養成事業の意義と成果



が紹介されました。また、時代の変化に応じて展開してきた特色あるキャンプ事業についても具体的な実践事例を交えて説明がありました。

第2部の座談会では、永吉宏英氏（大阪体育大学名誉教授・大阪府キャンプ協会会長）、石田易司氏（桃山学院大学名誉教授・大阪府キャンプ協会副会長）、焼野嘉津人氏（元大阪府青少年活動財団職員・大阪府キャンプ協会常務理事）をお迎えし、大阪のキャンプや青少年活動のこれまでと今後について意見交換を行いました。長年にわたる実践経験に基づくエピソードが紹介され、示唆に富む内容となりました。フロアからは「大阪のキャンプの特徴はフォーマットが整っている点にある」「指導者養成には品性と価値観の醸成が大切である」といった意見が寄せられました。事後アンケートでは「自然の中での直接体験や人との交流はこれからも大切だ」「『キャンプは出来上がった仕組みでなく、作り上げる仕組み』という言葉が印象に残った」「子どもの思いを引き出すリーダーになりたい」といった声が寄せられました。

本講演会を通じて、協会のこれまでの歩みや実践の価値を再確認するとともに、今後の協会活動の方向性を考える上で大変有意義な機会となりました。

素敵・快適・観光バスの旅



近鉄バス株式会社  
営業部観光営業課

〒577-0055  
東大阪市長栄寺19-17

当社では観光、教育、視察、イベントなど、様々なご要望にお応えし、安全を最優先にしながら、お客様のご旅行が素敵なものとなるようにサポートさせていただきます。観光バスのお見積り、ご用命は下記の電話番号へお問い合わせください。

また、当社ではバス乗務員を随時募集しております。充実の研修制度でバックアップ！あなたの“夢”近鉄バスで叶えてみませんか？

TEL 06-6781-0711(代) FAX 06-6781-8088

ホームページ <https://www.kintetsu-bus.co.jp>

検索

公式SNSも更新中！

# あいす・おおさか **デ・ィー・ズ!** ス・ラ・ン

## ■2026年3月の予定

事業名	日程	場所	対象	交通機関	参加費	集合解散
インターナショナルキャンプ	3月14日(土)~15日(日) 1泊2日	大阪府吹田市 吹田市自然体験交流センター	小学1年~ 4年生	JR・阪急 電鉄利用	22,500円	天王寺駅 大阪梅田駅
スプリングキャンプin曽爾高原	3月20日(金・祝)~22日(日) 2泊3日	奈良県曽爾村 国立曽爾青少年自然の家	小学1年~ 6年生	貸切バス 利用	30,000円	天王寺駅 新大阪駅
春・スキーキャンプin白鳥高原	3月26日(木)~28日(土) 2泊3日	岐阜県郡上市 スノーウェーブパーク白鳥高原	小学1年~ 6年生	貸切バス 利用	64,500円	新大阪駅
スプリングキャンプin信太山	3月29日(日)~31日(火) 2泊3日	大阪府和泉市 大阪市立信太山青少年野外活動センター	小学1年~ 6年生	JR利用	26,000円	天王寺駅 大阪駅

申込状況や詳しい内容についてはお問い合わせください。

TOPICS  
トピックス

## ロゴマークをリニューアルしました!

新しいロゴマークは、あいす・おおさかが大切にしてきた「ひとや自然との関わり」を象徴的に表現しています。カラーには、50年の歩みの深みと重みを感じさせる落ち着いた濃色を採用しました。文字構成は、「AYS・O」とし、最後の「O」は、自然を表す山並みと太陽、そしてひとの手で輪を描く姿を重ね、「こどもたちを大きく包み込む」という想いを表現しています。円環状に広がる太陽の光は、糸を撚り合せた丈夫な綱をイメージし、活動に関わる一人ひとりが他者を理解し、協同的に力を合わせる姿を象徴しています。このロゴには、関係するすべての方々との絆を深め、より厚い信頼を得られる存在でありたいという願いを込めています。



## コラム 野遊びのすずめ 松葉の馬

…「むかしは、正月の七日、その日を京都では「松葉むしり」と言っていた。子どもたちが、大きな家の門松のところへ集まってきてその松葉をむしって遊んでいた(相馬大・草花あそび)。以前にも紹介した「松葉の鶴」もその一つ。寒い寒い冬の季節「陽なたぼっこ」のなか、いろいろな松葉あそびが生み出されてきたのでしょう。

本年は「馬年」。松葉の馬を紹介します。まず充実した松葉、二本一對の葉を三本準備し、図のように松葉を挿して作ります。細い松葉に細い松葉をとおす作業は、なかなかむずかしいのですが、何回も何回も失敗を繰り返すと、目に頼らず指の感覚だけで葉を通すことができます。指先の微妙な力加減をコントロールして失敗を繰り返し繰り返しての作業。私は人として大切な作業体験だと思っています。

遊び方は、二人で馬にいきなり息をふきかけます。先に倒れた馬が負けとなります。(草木遊び塾 主宰 松井鴻)



◆多目的広場でサッカーや野球スポーツ合宿のできる施設  
**大阪市立信太山青少年野外活動センター**  
 大阪府和泉市伯太町 TEL 0725-41-2921  
<https://shinodayama.com/>

◆山や川、湖など一年中自然を満喫できる施設  
**吹田市立自然の家 (もくもくの里)**  
 滋賀県高島市今津町南生見 TEL 0740-24-0131  
<https://mokumoku-suita.jp/>

◆野外活動や環境学習、生涯学習活動に適した施設  
**吹田市自然体験交流センター (わくわくの郷)**  
 大阪府吹田市藤白台 TEL 06-6872-0713  
<https://wakuwaku-suita.com/>

◆学び、活動し、交流できる施設  
**吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館 (ゆいぴあ) 青少年活動サポートプラザ** 大阪府吹田市山田西  
 TEL 06-6816-8552 <https://support-suita.jp/>

◆学校オリエンテーションキャンプや合宿に適した施設  
**京都府立り湊少年自然の家 (グリーンパルり湊)**  
 京都府南丹市園部町 TEL 0771-65-0190  
<https://kyoto-rurikei.jp/>

◆青少年活動・野外活動についての相談は  
**大阪市青少年活動協会サービスステーション**  
 大阪市青少年活動協会 事務局 TEL 06-6942-0410